

経済倶楽部便り

◆東京◆ 東洋経済からこのほど『近代日本と石橋湛山』が刊行されました。著者は湛山研究の第一人者である京都大学名誉教授・松尾尊免氏です。石橋湛山と『東洋経済新報』が近代日本の言論史、経済史に残した足跡を詳述したものです。随所とはいきませんが、経済倶楽部もおよそ5カ所で触れられています。戦時下に25から41カ所に組織が拡大した経済倶楽部は、IV章で「戦時下憲兵の経済倶楽部監視」の見出しが立てられるほどの存在になっていました。ご購入だけだと、ありがたいです。

さて、8月の講演会は、4週間ほどお休みを

いただき、30日の小林良彰氏（慶應義塾大学法
学部教授）から再開いたします。（塚田 紀史）

◆中部◆ 今年前半最後の講演会は浜矩子・同志社大学大学院教授。講演会後に懇親会も控え、いつになく盛況。浜氏の講演主旨は「日本を取り戻す」という安倍政権は過去に逆戻りする発想に等しい。これからは「成長より共生」だというもの。トヨタ自動車の企業城下町的な傾向の強い当地だけに、浜氏の持論である「1ドル50円」説やアベノミクスの効用をただず質問が続出、やや雰囲気は硬くなりましたが、懇親会では浜氏を囲んで和気あいあいでした。

8月は休会月ですが、今年は特別講演会を予定。東洋経済新報社記者の浪川攻氏が被災地の現状についてレポートします。（日暮良一）